

中国瀋陽応用生態学研究室におけるミーティング内容について

【春山、山縣、増田】

日時：2005年9月27日

黒竜江、松花江、ウスリー川の川沿いにおける地域での地形観察結果として、表層部に最近の堆積物として粗い砂が堆積していること確認していることを、現場写真を用いて説明をした後、流域の土地被覆変化、土壌浸食と関わりがあると考えられるところから、われわれのグループでは、今後より表層土壌の詳細な調査を行いたいことを周博士に伝えた。

この折に、瀋陽の応用生態研究所内に同上の研究を行っている研究者の存在について確認したところ、長春の地理・農業生態研究所に関連した研究者がいるのではないかとこの返答であった。当研究所では、森林土壌と、耕地土壌の研究を行っているが、河川堆積物については研究を行っていないこと、むしろ、土地被覆変化を分析している景観生態学研究室の方がカウンターパートとして適当かもしれないとの助言を得た。

これらの意見に対して、日本川でも入手可能な衛星写真を用いて最近20年間のマクロスケールでの土地被覆変化を検討していることを伝え、また、表層地質の変化を調べるためにドリリングなどの調査と一緒にできる研究者についての確認をした。

これらの問いかけに対して、周博士と共同で研究している温室ガス効果の研究を行っている ShiYi 博士の協力を促す意見となった。

なお、中国から海外への土壌サンプルの持ち出しについての可能性を質問したところ、50kg以下であれば問題ないが、大量の土壌サンプルを持ち出そうとするととても複雑な手続きを要するというコメントを得た。

さらに、現地で使用できる地形図について、現在日本人が使用している50万分の1スケールの航空地図以外の、より大縮尺の地図の入手について問い合わせたところ、三江平原の行政機関として黒龍江省に問い合わせることを提案していただいた。さらに、現地調査に必要なものがあればリストアップして知らせてもらえれば、こちらから（周博士）問い合わせる結果を知らせるという回答を得た。

三江平原の土壌図については500万分の1の東北地方全体のもの【1960年代の作成】、デジタル画像を一部複写させていただいた。

土壌浸食に関する研究を行っている研究者がいるかの問いに対して、本研究所にはいないが、ハルピンの黒龍江省農業科学アカデミー土壌肥料研究所に関係する研究者がいると思う。黒龍江省農業科学アカデミーには、土壌肥料科学研究所と土壌水文研究所の二つの機関があることについての回答を得た。これらの機関とのコンタクトは張柏博士を通して連絡が取れるだろうとの事。最近の洪水の頻度、規模に関するデータは黒龍江水文ステーションが毎年観測している。土地被覆の変化に関するデータ、研究は本研究所の景観生態学研究室が研究を行っているとのことで、景観研究室の視察を行ったところ、ヒンガン山地の山火事のモニタリングをGIS解析しているのを見たが、三江平原についての同様の

ものは行っていないとのことであった。さらに、周博士、Shi 博士の研究室内の実験施設の見学を行った。



【写真 1】中国瀋陽応用生態学研究室を正面から撮影（2005 年 9 月 26 日）



【写真 2】景观生态学研究室前の研究紹介ポスター（2005 年 9 月 26 日）



【写真 3】研究所内の実験機器の一部（2005 年 9 月 26 日）